

Q [質問番号-29]

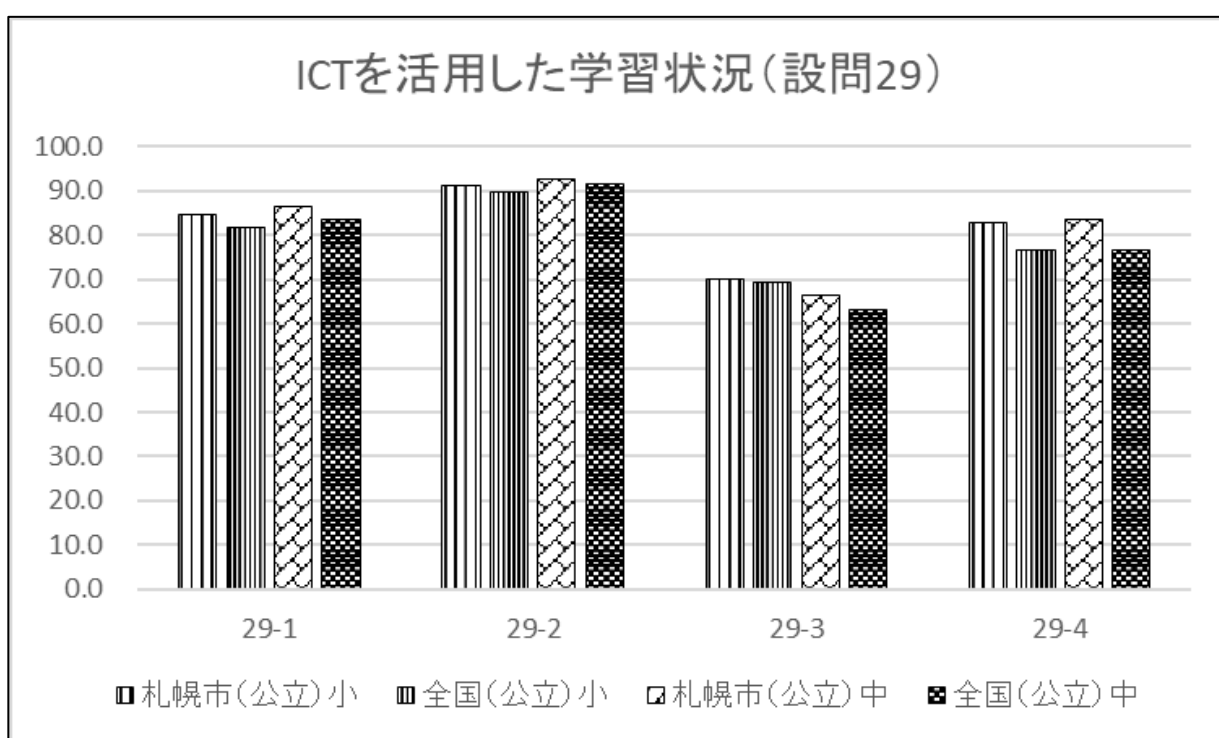
29-1 PC・タブレットなどの ICT 機器で文章を作成する(文字、コメントを書くことなど)ことができると思う。

29-2 インターネットを使って情報を収集する(検索する、調べるなど)ことができると思う。

29-3 PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると思う。

29-4 PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成することができると思う。

※グラフは肯定的な回答の割合を表し、グラフの左の数値(%)は正答率を表す。



◇どの設問においても、小中ともに全国の状況を上回っている。各学校において、学びの質を高め、「学ぶ力」を育成することを目的に ICT を効果的に活用してきた成果が表れてきている。

◆全国と同様の傾向であるが、情報を整理することについては他の質問より肯定的な回答の割合が低く、子どもが収集した情報について、どのように整理、分析するとよいかについて指導していくことが必要である。

Ⅲ 調査結果の活用について

1 活用の方針

札幌市では、「学ぶ力～自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力～」を、さっぼろっ子に育みたい共通の資質・能力として位置付け、学校教育全般を通して育成していきます。その育成に向けては、特に「課題探究的な学習」と「自治的な活動」を二本柱として、それらの授業や活動等の中に「本物の経験」となり得る場を創出していきます。

また、「学ぶ力」の育成を目指すに当たっては、その基盤となるのが“相互承認の感度”です。“相互承認の感度”は、子ども一人一人の主体性を大切にした多様な学びの中で、協働を通して磨かれていきます。

さらに、「学ぶ力」の育成を目指すためには、教科等の目標及び内容を基に学習を構成し、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」という資質・能力をバランスよく育むことが欠かせません。

○札幌市の子どもたちに、どのように「学ぶ力」が身に付いているのかを把握し、課題を明らかにして教育施策等を見直し、改善していくことが重要であることから、教育委員会では、札幌市全体の共通指標に基づく児童生徒アンケート調査や、全国学力・学習状況調査など、様々な調査等を活用して、札幌市全体の子どもたちの現状把握や分析、改善策の明確化に取り組んでいます。本資料は、その取組の一環として、全国学力・学習状況調査の結果について、市全体の結果概要をまとめたものです。

○市内小中学校においては本資料を参考にし、自校の調査結果の分析を図るとともに、「学ぶ力」育成プログラムを改訂・実施するなど、検証改善に役立てていくこととしています。

＊各学校においては、学校間の序列化や過度な競争が生じないよう配慮して結果を取り扱うこととしており、学校ごとの数値の公表は行いません。

＊各学校の調査結果の分析、それを踏まえて改訂した「学ぶ力」育成プログラムについては、各学校のホームページに掲載することとしています。

2 調査結果の公表の仕方

○札幌市の教育推進において、保護者、市民からの理解と協力を得て教育活動等を充実していくためには、丁寧で詳しい説明が必要との考え方にに基づき、本資料の作成に当たっています。

○市全体の調査結果については、分析結果等を示しつつ、(中学校理科を除いて)全国平均と比較して±3ポイントの範囲内であれば、全国と「ほぼ同程度であるが、やや上回っている」など、教育委員会としての結果に対する捉えを言葉で示すとともに、その根拠がより明確となるように、「平均正答率」の数値を示しています。

**本資料に掲載した調査結果については、あくまで教育活動の一側面です
ので、その点に十分留意し、本調査結果のみをもって、教育活動全体を
評価することのないようお願いします。**

3 札幌市の現状を踏まえた今後の取組

【現状】

- ◇各学校において、札幌市学校教育の「基盤」である、人間尊重の教育を推進し、子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくりを進めてきた成果が表れてきていると考えられる。
- ◇さっぽろっ子自治的な活動に係る質問の肯定的な回答については、昨年より減少傾向が見られたものの、令和5年度以前と比べると肯定的な回答の割合が増加していることや、小中ともに全国との差は縮まっていることから、さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づいた「さっぽろっ子自治的な活動」を推進してきた成果が表れてきていると考えられる。
- ◇各学校において、AARサイクルの視点で授業改善を図り、子ども一人一人の主体性を大切にしながら多様な学びを推進してきた成果が表れてきていると考えられる。
- ◇ICTを活用した学習状況に係る質問において、小中ともに全国の状況を上回っている。各学校において、学びの質を高め、「学ぶ力」を育成することを目的にICTを効果的に活用してきた成果が表れてきている。
- ◆教科に関する調査において、小中ともに国語では自分の考えが伝わりやすく書き表したりすることに課題が見られたり、小学校理科においても結果を基に結論を導いた理由を表現することに課題が見られるなど、「表現」に関わる内容に課題がある。
- ◆子どもが自らの学びや成長を振り返るリフレクションの場面をより充実させていく必要がある。
- ◆改めて「学びのコントローラーをもっているのは子ども自身」というコンセプトの基に、子ども自身が課題に対して主体的に探究し、自分の考えをもちながら学び進められるような単元や題材の構成を教師が行う必要がある。
- ◆ICT機器の活用に係る質問の肯定的な回答については、小中ともに全国の状況を上回っているが、「ほぼ毎日」使用している割合は全国の状況より下回っており、端末の活用を一層進めていく必要がある。
- ◆ICTを活用した学習状況においては全国と同様の傾向であるが、情報を整理することについては他の質問より肯定的な回答の割合が低く、子どもが収集した情報について、どのように整理、分析するとよいかについて指導していくことが必要である。

【今後の取組】

- ☆引き続き、「人間尊重の教育」を札幌市学校教育の基盤としながら、「課題探究的な学習」と「自治的な活動」を二本柱として、「学ぶ力」を育成していく。
- ☆「課題探究的な学習」においては、改めて教師自身が、子ども一人一人が学びのコントローラーをもって探究を進めることのできるような単元や題材を構成し、子ども一人一人の探究の充実を図ることで、自らの学びや成長を実感するためのリフレクションにつなげていく。
- ☆子ども一人一人が、自分の思いや考えを形成したり、集めた情報や他者の考えを踏まえて自分の思いや考えについて捉え直したりすることができるような学習場面を、単元や題材の中に位置付けていく。ICTを活用する場面においても、収集した情報を基に、自らの考えを整理していけるような活用を進めていく。
- ☆「自治的な活動」においても、思いや願いを基にして、子ども一人一人が考えをもち、端末を活用するなどして、その思いや考えを分かりやすく相手に伝えるために工夫する機会を充実させていく。

IV 教科に関する調査の結果と分析

【小学校国語】

教科に関する調査の結果概要及び改善の方向等について

本市の概要

【内容】

「言葉の特徴や使い方に関する事項」

- ◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「情報の扱い方に関する事項」

- ◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「我が国の言語文化に関する事項」

- ◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「話すこと・聞くこと」

- ◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「書くこと」

- ◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「読むこと」

- ◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

今回の調査における課題

➢学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。

➢情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

➢目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。

➢目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

➢目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見付けること。

改善の方向

➢同音や同訓の漢字に注意し、言葉の意味を考えて文の中で正しく使う学習活動の充実。

➢複雑な事柄を分解して捉えたり、多様な内容を要素ごとに分類したりする際に、短い語句で端的に表し、図で表しながら考えをまとめる学習活動の充実。

➢実際の話合いの場面を具体的に想定し、目的や意図に応じて話す内容や質問を分類・関係付けながら、話合いの進め方を考える学習活動の充実。

➢書く目的や意図を明確にし、条件に合わせて詳しく書いたり簡単に書いたりするとともに、図表を用いるなど、必要な場合を判断しながら書き表し方を工夫する学習活動の充実。

➢説明的な文章を読む目的を明確にし、文章や図表など複数の資料から必要な情報を取捨選択・整理・再構成しながら、それぞれの資料を関連付けて考える学習活動の充実。

記号の意味

(△) 上回っている

(◇) やや上回っている +3ポイント

ほぼ同程度 ← 全国平均正答率

(◆) やや下回っている -3ポイント

(▼) 下回っている

* 「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。

小学校国語	平成29年度		平成30年度		平成31年度 (令和元年度)
学習指導要領の領域等	A	B	A	B	
話すこと・聞くこと	◆	◆	◇	◆	◆
書くこと	◆	◆	◇	◆	▼
読むこと	◇	◇	◆	◆	◆
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	◆		◇		◆

小学校国語	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
学習指導要領の内容					
言葉の特徴や使い方に関する事項	◆	◆	◆	◆	◆
情報の扱い方に関する事項			◆	—	◆
我が国の言語文化に関する事項		▼		◇	◇
話すこと・聞くこと	◆	◆	◆	◆	◆
書くこと	◇	◇	▼	◆	◆
読むこと	◆	◇	◆	◇	◇

小学校調査〔国語〕

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値です。

集計結果

対象児童数	札幌市（公立）	全国（公立）
	13,589	936,137

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
				札幌市(公立)	全国(公立)
全体			14	66.4 ◆	66.8
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	75.3 ◆	76.9
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	62.4 ◆	63.1
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	82.0 ◇	81.2
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	65.9 ◆	66.3
		B 書くこと	3	68.6 ◆	69.5
		C 読むこと	4	57.8 ◇	57.5
評価の観点		知識・技能	4	73.8 ◆	74.5
		思考・判断・表現	10	63.5 ◆	63.8
		主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式		選択式	9	64.6 ◆	64.7
		短答式	3	77.4 ◆	78.5
		記述式	2	58.0 ◆	58.8

記号の意味
(△) 上回っている
<div> <div> (◇) やや上回っている +3ポイント (◆) やや下回っている -3ポイント </div> <div> ほぼ同程度 </div> </div> ← 全国平均正答率
(▽) 下回っている

※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内

問題別集計結果

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正 答 率 (%)		無 解 答 率 (%)		
			知識及び技能			思考力・判断力・表現力等													
			(1) 言葉 の特徴 や使 い方 に 関 する 事 項	(2) 情 報 の 扱 い 方 に 関 する 事 項	(3) 我 が 国 の 言 語 文 化 に 関 する 事 項	A 話 す こ と ・ 聞 く こ と	B 書 く こ と	C 読 む こ と	知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	選 択 式	短 答 式	記 述 式	札 幌 市 （ 公 立 ）	全 国 （ 公 立 ）	札 幌 市 （ 公 立 ）	全 国 （ 公 立 ）	
1 一	【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる				5・6 ア				○		○			52.1	◆	53.3	0.6	0.5
1 二	【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる		5・6 イ						○		○			62.4	◆	63.1	0.6	0.5
1 三 (1)	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部Aのように発言した目的として適切なものを選択する	自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる				5・6 エ				○		○			71.1	◆	71.8	0.7	0.6
1 三 (2)	【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部Bのように発言した理由として適切なものを選択する	話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる				5・6 エ				○		○			74.5	◇	73.7	0.7	0.6
2 一	【ちらし】の文章の構成の工夫を説明したものとして適切なものを選択する	書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができるかどうかをみる				3・4 イ				○		○			64.8	◆	65.5	1.2	0.8
2 二	山田さんが手ぬぐいの模様について言葉と図で説明した理由として適切なものを選択する	図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる				5・6 エ				○		○			81.1	◆	81.8	1.2	0.8
2 三	【ちらし】の二重傍線部を、【読べたこと】を基に詳しく書く	目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる				5・6 ウ				○		○			59.8	◆	61.3	6.1	5.0
2 四ア	【ちらし】の下線部Aを、漢字を使って書き直す（2ひみ）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6 エ							○		○			81.7	◇	81.6	8.4	7.2
2 四イ	【ちらし】の下線部イを、漢字を使って書き直す（あついで）		5・6 エ							○		○			68.9	▼	72.1	5.5	4.3
3 一	【資料1】を読んで思い出した【木村さんの経験】を通して、木村さんが気付いたこととして適切なものを選択する	時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる			5・6 ウ					○		○			82.0	◇	81.2	1.5	1.3
3 二 (1)	【木村さんのメモ】の空欄Aに入る適切な言葉を【資料2】の中から書き抜く	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかをみる							1・2 ア	○		○			81.7	◇	81.6	3.3	2.9
3 二 (2)	【資料3】を読み、【木村さんのメモ】の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選択する	事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる				5・6 ア				○		○			50.3	◆	51.3	2.8	2.4
3 三 (1)	【話し合いの様子】の田中さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる				5・6 ウ				○		○			42.8	◇	40.8	3.9	3.4
3 三 (2)	【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が納得したこと、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめて書く	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる				5・6 ウ				○		○			56.2	◆	56.3	18.1	16.2

【小学校算数】

教科に関する調査の結果概要及び改善の方向等について

本市の概要

【領域】

「数と計算」

- ◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「図形」

- ◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「測定」

- ◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「変化と関係」

- ◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「データの活用」

- ◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

今回の調査における課題

- 異分母の分数の加法の計算をすること。
例) $1/2 + 1/3$ を計算しましょう。
- 平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図すること。
- はかりの目盛りを読むこと。
例) はかりの針がさしている目もりは何 g ですか。答えを書きましょう。
- 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述すること。
- 目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること。
例) 2023年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、2013年より増えたかどうか、下のAとイから選んで、その記号を書きましょう。また、その記号を選んだ訳を、言葉や数を使って書きましょう。

改善の方向

- 分数の加法及び減法の計算の仕方を分数の意味や大きさに着目して考える活動の充実。
- 辺の長さや角の大きさ、辺の位置関係に着目して、図形の構成の仕方について考察する活動の充実。
- 身の回りのものの大きさを単位を用いて表現する活動の充実。その際、示されたはかりの最小目盛りの大きさに着目することが大切。
- 日常の事象について、ある数量を調べようとするときに、それと関係のある数量を見だし、それらの数量の関係を把握して問題を解決する活動の充実。その際、二つの数量関係を表・式・言葉を用いて表現することが大切。
- 日常の事象について、目的に応じて、必要なデータを収集し、データの特徴や傾向を捉え考察する活動の充実。例えば、興味・関心や問題意識に基づき、棒グラフの項目間の関係を読み取ったり、目的に応じて適切なグラフを選択して考察したり、表から導いた結論の根拠となる数に着目したりすることができるようになることが大切。

記号の意味

(△) 上回っている

(◇) やや上回っている +3ポイント

ほぼ同程度 ← 全国平均正答率

(◆) やや下回っている -3ポイント

(▼) 下回っている

* 「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して ±3ポイントの範囲内。

小学校算数	平成29年度		平成30年度		平成31年度 (令和元年度)
学習指導要領の領域	A	B	A	B	
数と計算	◆	◇	◆	◆	◆
量と測定	◇	▼	◆	◆	◇
図形	▼	◆	◇	◆	◆
数量関係	◆	◆	◇	◇	◆

小学校算数	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
学習指導要領の領域					
数と計算	◆	◆	◆	◆	◆
図形	◆	◇	△	◇	◇
測定	◆				◆
変化と関係	◆	◆	—	◆	◇
データの活用	◇	◆	◆	◆	◇

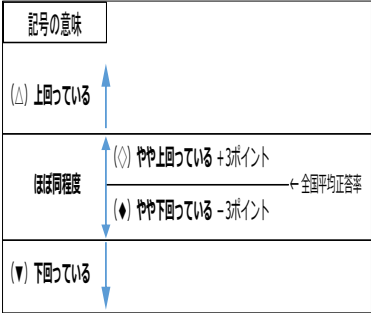
小学校調査【算数】

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値です。

集計結果

対象児童数		札幌市（公立）		全国（公立）	
		13,588		936,399	
分類	区分	対象問題数 （問）	平均正答率（％）		
			札幌市（公立）	全国（公立）	
全体		16	57.8	◆	58.0
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	61.0	◆	62.3
	B 図形	4	56.4	◇	56.2
	C 測定	2	54.5	◆	54.8
	C 変化と関係	3	59.5	◇	57.5
	D データの活用	5	63.6	◇	62.6
評価の観点	知識・技能	9	64.7	◆	65.5
	思考・判断・表現	7	48.8	◇	48.3
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	69.6	◇	67.2
	短答式	6	61.4	◆	64.0
	記述式	4	34.5	◆	34.9

(注)「学習指導要領の領域」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は「全体」の問題数とは一致しない。



※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式		正答率(%)		無解答率(%)			
			A 数と 計算	B 図 形	C 測 定	C 変 化 と 関 係	D デ ー タ の 活 用	知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	選 択 式	短 答 式	記 述 式	札 幌 市 (公 立)	全 国 (公 立)	札 幌 市 (公 立)	全 国 (公 立)	
1 (1)	2022年の全国のブロックリーの出荷量が2020年の全国のブロックリーの出荷量の約何倍かを、棒グラフから読み取って選ぶ	棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる	3(4) 7(7)					3(1) 7(4)	○			○		79.8	◇	78.7	0.5	0.4
1 (2)	都道府県Aのブロックリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く	目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる						3(1) 7(4) 5(1) 7(7) 4(7)		○			○	31.3	◇	31.0	1.0	0.9
1 (3)	示された表から、「春だいいん」や「秋冬だいいん」より「夏だいいん」の出荷量が多い都道府県を選ぶ	簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる						3(1) 7(7)	○			○		73.7	◇	71.6	3.6	3.5
1 (4)	示された資料から、必要な情報を選び、ピーマン1個とブロックリー4個の重さを求める式と答えを書く	示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができるかどうかをみる	4(6) 7(7) 4(7)							○			○	73.6	◆	74.5	3.1	2.6
2 (1)	示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶ	平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうかをみる		4(1) 7(4)					○				○	53.9	▼	58.3	1.7	1.2
2 (2)	方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる		4(1) 7(4)					○			○		56.6	△	50.2	1.1	0.7
2 (3)	角をつくる二つの辺をそれぞれのばした図形の角の大きさについてわかることを選ぶ	角の大きさについて理解しているかどうかをみる		4(5) 7(7)					○			○		77.2	◆	79.3	1.4	1.0
2 (4)	五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く	基本図形に分割することができる図形の面積の求め方、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる		5(3) 7(7) 8						○			○	37.9	◇	37.0	3.5	2.7
3 (1)	0、4÷0、05について、整数の加法で考えるときの共通する単位を書く	小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかをみる	4(4) 7(7) 7(9)						○				○	74.7	◇	74.1	3.5	2.8
3 (2)	3/4+2/3について、共通する単位分数と、3/4と2/3が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く	分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	5(5) 7(7) 4(7)							○			○	20.5	◆	23.0	20.0	15.7
3 (3)	数直線上に示された数を分数で書く	数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる	3(6) 7(7) 7(4)						○				○	34.6	◆	35.0	9.7	7.8
3 (4)	1/2+1/3を計算する	異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる	5(5) 7(7)						○				○	71.3	▼	81.3	6.1	4.1
4 (1)	新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を選ぶ	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる	3(4) 7(7)		4(1) 7(7)	5(2) 7(7)				○			○	84.7	◇	82.8	3.3	2.6
4 (2)	使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を書く	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	3(4) 7(7)	3(1) 7(7)	4(1) 7(7)	5(2) 7(7)			○				○	48.5	◆	48.7	3.8	3.4
4 (3)	はかりが示された画面で、はかりの目盛りを読む	はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる		3(1) 7(4)					○				○	60.5	◆	60.9	4.5	4.2
4 (4)	10%増量したつかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ	「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる				5(3) 7(7)			○				○	45.3	△	40.9	4.6	4.1

※本設問においては、思考力、判断力、表現力等をみるために用いる知識及び技能を示している。

本市の概要

【領域】

「エネルギー」を柱とする領域

- ◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「粒子」を柱とする領域

- ◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「生命」を柱とする領域

- ◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

「地球」を柱とする領域

- ◆全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

今回の調査における課題

➢身の回りの電気を通す物と磁石に引き付けられる物との差異点や共通点について理解すること。

➢水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、実験の方法が適切であったかを検討し、表現すること。

➢レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現すること。

➢赤玉土と粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現すること。

改善の方向

➢物質の性質に関する理解を深めるために、学習した知識を既習の内容や他の学習や生活と関係付け、習得した知識を整理する学習活動の充実。

➢結論を見いだす過程において、結果そのものと、そこから言えること（考察）を区別して、より妥当な考えをつくりだすことができるよう、子どもの表現を整理する教師による関わりの充実。

➢問題を見いだす力を育むために、観察、実験の結果を比較して、差異点や共通点を基に、具体的な条件に着目し、一人一人が見いだした問題をノートなどに書くなどの、思考し表現する活動の充実。

記号の意味

(△) 上回っている

(◇) やや上回っている +3ポイント

ほぼ同程度 ← 全国平均正答率

(◆) やや下回っている -3ポイント

(▼) 下回っている

* 「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。

小学校理科	平成24年度	平成27年度	平成30年度	小学校理科	令和4年度	令和7年度
学習指導要領の領域				学習指導要領の領域		
物質	◇	◇	◆	「エネルギー」を柱とする領域	◆	◆
エネルギー	◆	◆	◆	「粒子」を柱とする領域	◆	◇
生命	◆	◆	◆	「生命」を柱とする領域	◆	◆
地球	◆	◆	◆	「地球」を柱とする領域	◇	◆

小学校調査 [理科]

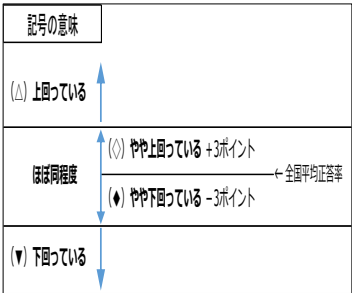
・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値です。

集計結果

対象児童数		札幌市（公立）	全国（公立）
		13,592	936,576

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				札幌市（公立）	全国（公立）	
全体			17	56.3	◆	57.1
学習指導要領 の区分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	44.9	◆	46.7
		「粒子」を柱とする領域	6	51.8	◇	51.4
	B区分	「生命」を柱とする領域	4	50.4	◆	52.0
		「地球」を柱とする領域	6	66.6	◆	66.7
評価の観点		知識・技能	8	54.1	◆	55.3
		思考・判断・表現	9	58.4	◆	58.7
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	11	55.0	◇	54.7
		短答式	4	67.8	◆	69.7
		記述式	2	41.0	▼	45.2

(注)「学習指導要領の区分・領域」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の問題数を合計した数は「全体」の問題数とは一致しない。



※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内

問題別集計結果

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の区分・領域			評価の観点			問題形式		正 答 率 (%)		無解答率 (%)		
			A 区分		B 区分										
			「エ ネ ル ギ ー」を柱とする領域	「粒 子」を柱とする領域	「生 命」を柱とする領域	「地 球」を柱とする領域	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	札幌市（公立）	全国（公立）	札幌市（公立）
1 (1)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み時間の違いを調べる実験の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの条件を書く	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる			4 B (3)ア (4)B		○		○		81.2	◇	79.5	2.8	2.5
1 (2)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いをまとめたわけについて、結果を用いて書く	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現することができるかどうかをみる			4 B (3)ア (4)B		○		○		57.1	▼	60.5	9.7	8.5
1 (3)	【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらの量の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる			4 B (3)ア (4)B		○		○		78.0	◇	77.8	1.2	0.9
2 (1)	アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ	身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる	3 A (6)ア (7)B (4)B	3 A (4)ア (7)ア			○		○		9.3	◆	10.6	0.8	0.6
2 (2)	電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの腕を人形Bに当てただけ、ベルが鳴る回路を選ぶ	電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる	3 A (6)ア (7)B (4)B				○		○		44.5	◇	42.9	0.7	0.6
2 (3)	ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く	電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる	5 A (3)ア (4)ア				○		○		72.8	▼	78.0	3.6	2.7
2 (4)	乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ	乾電池のつなぎ方について、直列につなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる	4 A (3)ア (7)ア				○		○		52.8	◆	55.1	0.9	0.8
3 (1)	ヘチマの花のおしべとめしべについて遊び、受粉について書く	ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかをみる			5 B (1)ア (2)ア		○		○		65.5	▼	70.7	2.0	1.5
3 (2)	ヘチマの花粉を顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ	顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いているかどうかをみる			5 B (1)ア		○		○		49.0	△	45.6	1.2	0.8
3 (3)	ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ	発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる			5 B (1)ア (4)B			○	○		62.1	◇	62.0	2.3	1.7
3 (4)	レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気付きを基に、見いだした問題について書く	レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる			5 B (1)イ			○		○	24.9	▼	29.9	14.4	11.4
4 (1)	水の温まり方について、問題に対するまとめをいうために、調べる必要があることについて書く	水の温まり方について、問題に対するまとめを導きだす際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる	4 A (2)ア (4)B				○		○		51.6	◇	50.6	7.7	6.1
4 (2) イウ	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ	水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる	4 A (2)ア (9)ア	4 B (4)ア (4)イ			○		○		67.3	△	64.2	1.7	1.3
4 (2) エオ	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ	水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解しているかどうかをみる	4 A (2)ア (9)ア	4 B (4)ア (4)イ			○		○		56.8	◆	57.5	2.1	1.5
4 (3) カ	海にある水がとけることについて、水が氷に変わる温度を根拠に予想しているものを選ぶ	水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の水の面積が減少した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる	4 A (2)ア (9)B				○		○		60.9	◇	59.8	3.2	2.3
4 (3) キ	水が陸から海へ流れていくことについて、水の行方と関連付けているものを選ぶ	水がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことを関連付けて、知識を概念的に理解しているかどうかをみる			4 B (3)ア (7)ア		○		○		59.3	◆	60.9	3.4	2.4
4 (3) ク	海面水位の上昇について、水の温度による体積の変化を根拠に予想しているものを選ぶ	「水は温まると体積が増える」を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる	4 A (2)ア (7)B				○		○		64.7	◆	65.6	3.4	2.5

※本設問においては、思考力、判断力、表現力等をみるために用いる知識及び技能を示している。

本市の概要

【領域】

「言葉の特徴や使い方に関する事項」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「話すこと・聞くこと」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「書くこと」

―全国平均と同程度である。

「読むこと」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

今回の調査における課題

➤ 事象や行為を表す語句について理解すること。

➤ 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。

➤ 読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えること。

➤ 目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。

➤ 表現の効果について、根拠を明確にして考えること。

改善の方向

➤ 新しく出会った言葉について調べたことを記録したり、その語句を話や文章の中で使ったりする活動の充実。

➤ 聞き手の反応を踏まえて話の受け止め方や理解の状況を捉え、相手に分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す活動の充実。

➤ 伝えようとするものが伝わるかどうか、文字や表記が正しいか、漢字と仮名の使い分けや語句の選び方・使い方が適切かどうかを確かめながら自分の書いた文章を見直す活動の充実。

➤ 題材や伝えたいことが目的や相手、書く意図に合っているかを判断しながら文章を書く活動の充実。

➤ 表現の効果について、自分の考えを支える根拠を挙げるながら自分の考えを書いたり発表したりする活動の充実。

記号の意味

(△) 上回っている

ほぼ同程度

(◇) やや上回っている +3ポイント

(◆) やや下回っている -3ポイント

← 全国平均正答率

(▼) 下回っている

* 「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。

中学校国語	平成30年度		平成31年度 (令和元年度)	令和3年度
学習指導要領の領域等	A	B		
話すこと・聞くこと	◇	◇	◇	◇
書くこと	◇	◇	◇	◇
読むこと	◇	◇	◇	◇
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する事項	◇	◆	◇	◇

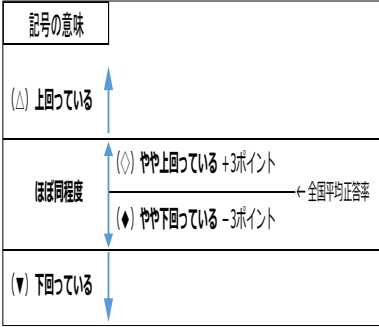
中学校国語	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
学習指導要領の内容				
言葉の特徴や 使い方に 関する事項	◇	◆	◇	◇
我が国の言語文化に 関する事項	◆	◇	◇	◇
話すこと・聞くこと	◇	◇	◇	◇
書くこと	◆	◇	◇	-
読むこと	◇	◇	◇	◇

中学校調査 [国語]

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値です。

集計結果

対象生徒数			札幌市（公立）		全国（公立）
			12,897		870,560
分類		区分	対象問題数（問）	平均正答率（％）	
		全体	14	札幌市（公立）	全国（公立）
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	55.5 ◇	54.3
		(2) 情報の扱い方にに関する事項	0	49.2 ◇	48.1
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0		
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	4	55.7 ◇	53.2
		B 書くこと	5	52.8 —	52.8
		C 読むこと	3	64.0 ◇	62.3
評価の観点	知識・技能		2	49.2 ◇	48.1
	思考・判断・表現		12	56.6 ◇	55.3
	主体的に学習に取り組む態度		0		
問題形式	選択式		8	65.5 ◇	63.9
	短答式		2	73.5 ◆	73.6
	記述式		4	26.7 ◇	25.3



※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率（％）		無解答率（％）	
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等												
			(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項	(2) 情報の扱い方に 関する事項	(3) 我が国の言語文化に 関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度	選択式	短答式	記述式	札幌市（公立）	全国（公立）	札幌市（公立）	全国（公立）
1一	変換した漢字として適切なものを選択する（かいしん）	文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる	2ウ						○			○		39.6	△	35.2	0.2	0.2
1二	ちらしに「金堀園」を加えた目的を説明したものとして適切なものを選択する	目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる					1ア		○		○		82.1	◆	82.5	0.2	0.2	
1三	ちらしの中の情報について、示す位置を変えた意図を説明したものとして適切なものを選択する	書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができるかどうかをみる					1イ		○		○		63.9	◇	63.3	0.9	0.5	
1四	ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる					1ウ		○			○	31.4	◇	31.0	1.6	1.6	
2一	スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する	資料や機器を用いた話し方の工夫を捉えることができるかどうかをみる				2ウ			○		○		42.9	△	38.1	0.4	0.3	
2二	聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものとして適切なものを選択する	相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる				1ウ			○		○		78.8	◇	77.9	0.4	0.3	
2三	「話の順序を入れ替えた方がよい」という助言の意図を説明したものとして適切なものを選択する	自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができるかどうかをみる				2イ			○		○		76.5	△	73.4	0.6	0.6	
2四	発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる				2ウ			○			○	24.8	◇	23.2	4.2	4.0	
3一	物語の始めに問いかけが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する	表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる					1エ		○		○		81.1	◇	80.0	0.7	0.5	
3二	「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く	文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかをみる					2ア		○			○	91.3	◇	89.9	3.6	4.0	
3三	「しきり」との意味として適切なものを選択する	事象や行為を表す言葉について理解しているかどうかをみる	1ウ						○			○	58.8	◆	61.0	0.9	0.8	
3四	「一 模木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそう考えた理由を書く	文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる					1エ		○			○	19.4	◇	17.1	27.8	28.1	
4一	手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する	読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる					1エ		○			○	55.6	◆	57.3	34.1	33.5	
4二	手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見付けて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く	読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる					1エ		○			○	31.2	◇	30.1	18.5	19.1	

本市の概要

【領域】

「数と式」

△全国平均より上回っている。

「図形」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「関数」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

「データの活用」

◇全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

記号の意味

(△) 上回っている

(◇) やや上回っている +3ポイント

ほぼ同程度 ← 全国平均正答率

(◆) やや下回っている -3ポイント

(▼) 下回っている

* 「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。

今回の調査における課題

➤ 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること。

例) 連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることを説明しましょう。

➤ ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明すること。

例) 条件を変えた図から新たに見いだした事柄について、平行四辺形の性質やすでに証明した内容を用いて成り立つかどうか考察しましょう。

➤ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に解釈すること。

例) A 駅から 60.0 km 地点につくられる新しい駅の運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明しましょう。

➤ 不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。

改善の方向

➤ 文字を用いた式を活用して、数量や数量の関係を簡潔、明瞭で一般的に表現し、処理する活動の充実。その際、処理することによって得た結果を問題に即して解釈することができるようになることが大切。

➤ 図形の性質を考察する場面において、ある事柄が成り立つことを数学的な表現を用いて説明するとともに、解決過程を振り返り、得られた結果を意味づけたり活用したりする活動の充実。

➤ 日常生活や社会の事象を考察する場面において、事象を理想化したり単純化したりして、取り出した二つの数量の関係を関数とみなし、問題を解決する活動の充実。その際、問題解決の方法を数学的に説明できることが大切。

➤ 不確定な事象を考察する場面において、場合の数を基にして得られる確率を用いて事象の起こりやすさの傾向を捉えて判断するとともに、その判断の理由を確率を根拠として説明する活動の充実。

中学校数学	平成29年度		平成30年度		平成31年度 (令和元年度)	令和3年度	中学校数学	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
学習指導要領の領域	A	B	A	B			学習指導要領の領域				
数と式	—	◇	◆	◇	◇	◇	数と式	◆	◇	◇	△
図形	◇	◇	◇	◇	◇	△	図形	△	△	△	◇
関数	◇	◇	◇	◇	◇	◆	関数	◇	◇	◇	◇
資料の活用	◇	◆	◇	◇	◇	◆	データの活用	◇	◆	◇	◇

中学校調査 [数学]

・以下の集計値／グラフは、4月17日に実施した調査の結果を集計した値です。

集計結果

対象生徒数		札幌市（公立）		全国（公立）	
		12,914		871,097	
分類	区分	対象問題数 （問）	平均正答率（％）		
			札幌市（公立）	全国（公立）	
全体		15	51.2	◇	48.3
学習指導要領の 領域	A 数と式	5	48.3	△	43.5
	B 図形	4	49.4	◇	46.5
	C 関数	3	50.3	◇	48.2
	D データの活用	3	59.1	◇	58.6
評価の観点	知識・技能	9	57.8	△	54.4
	思考・判断・表現	6	41.2	◇	39.1
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	3	59.3	△	54.0
	短答式	7	54.6	◇	52.0
	記述式	5	41.4	◇	39.6



※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)		無解答率(%)		
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	札幌市（公立）	全国（公立）	札幌市（公立）	全国（公立）	
1	1から9までの数の中から素数を全て選ぶ	素数の意味を理解しているかどうかをみる	$\frac{1(1)}{7(7)}$					○			○		44.6	△	31.8	0.6	0.7
2	果汁40%の飲み物a mLに含まれる果汁の量を、aを用いた式で表す	数量を文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる	$\frac{1(2)}{7(2)}$					○			○		53.4	◇	51.9	7.3	7.3
3	△ABCにおいて、∠Aの大きさが50°のときの頂点Aにおける外角の大きさを求める	多角形の外角の意味を理解しているかどうかをみる		$\frac{2(1)}{7(4)}$				○			○		61.8	△	58.1	1.8	2.0
4	一次関数y=6x+5について、xの増加量が2のときのyの増加量を求める	一次関数y=ax+bについて、変化の割合を基に、xの増加量に対するyの増加量を求めることができるかどうかをみる			$\frac{2(1)}{7(7)}$			○			○		37.5	◇	34.7	8.4	8.0
5	ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m以上25m未満の階級の相対度数を求める	相対度数の意味を理解しているかどうかをみる				$\frac{1(1)}{7(7)}$		○			○		42.4	◆	42.5	10.9	9.4
6(1)	連続する二つの3の倍数の和が9の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その和を求める	事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができるかどうかをみる	$\frac{2(1)}{7(2)}$	$\frac{1(4)}{7(4)}$				○			○		67.7	△	62.8	4.4	4.6
6(2)	3nと3n+3の和を2(3n+1)+1と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であるかを説明する	式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	$\frac{2(1)}{7(4)}$	$\frac{1(4)}{7(4)}$				○			○		30.7	△	25.7	24.8	24.9
6(3)	連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	$\frac{2(1)}{7(4)}$	$\frac{1(4)}{7(4)}$				○			○		45.1	◆	45.2	19.3	20.2
7(1)	Aの手元のカードが3枚とも「ゲー」、Bの手元のカードが3枚とも「チョキ」でじゃんけんカードゲームの1回目を行うとき、1回目にAが勝つ確率を書く	必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかをみる				$\frac{2(2)}{7(7)}$		○			○		79.3	◇	77.4	3.3	3.2
7(2)	Aの手元のカードが「ゲー」、「チョキ」、「パー」、「パー」の4枚、Bの手元のカードが「ゲー」、「チョキ」の2枚のとき、AとBの勝ちやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する	不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる				$\frac{2(2)}{7(4)}$	$\frac{1(4)}{7(4)}$	○			○		55.5	◆	55.9	2.9	2.2
8(1)	A駅からの走行距離と運賃の関係を表すグラフの何を読み取ればC駅とD駅の間の走行距離が分かるかを選ぶ	事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる				$\frac{1(1)}{7(9)}$	$\frac{1(9)}{7(9)}$	○			○		73.1	◇	71.9	2.8	2.3
8(2)	A駅から60.0km地点につくられる新しい駅の運賃がおおよそ何円になるかを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる			$\frac{1(1)}{7(4)}$		$\frac{1(4)}{7(4)}$	○			○		40.4	◇	38.0	35.2	35.0
9(1)	四角形AECFが平行四辺形であることの証明を振り返り、新たに分かることを選ぶ	証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだすことができるかどうかをみる			$\frac{2(2)}{7(4)}$	$\frac{1(4)}{7(4)}$		○			○		60.3	◇	58.5	1.5	1.1
9(2)	平行四辺形ABCDの辺CB、ADを延長した直線上にBE=DFとなる点E、Fを取っても、四角形AECFは平行四辺形となることの証明を完成する	統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる			$\frac{2(2)}{7(7)}$	$\frac{1(7)}{7(7)}$		○			○		40.1	△	36.3	8.6	7.2
9(3)	平行四辺形ABCDの辺BC、DAを延長した直線上にBE=DFとなる点E、Fを取り、辺ABと線分FCの交点をG、辺DCと線分AEの交点をHとしたとき、四角形AGCHが平行四辺形になることを証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる			$\frac{2(2)}{7(4)}$	$\frac{1(4)}{7(4)}$		○			○		35.4	◇	33.2	31.2	31.5

今回の調査における課題**【領域】****「エネルギー」を柱とする領域**

- 考察をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明すること。

「粒子」を柱とする領域

- 化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すなど質的・実体的な視点で捉えること。

「生命」を柱とする領域

- 小腸の柔毛、肺の肺胞、根毛に共通する構造について学習する場面において、共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、多面的、総合的に分析して解釈すること。

「地球」を柱とする領域

- 大地の変化について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現すること。

**改善の方向**

- 観察、実験の結果を分析・解釈する力を育むために、探究の過程を調整して実験を計画したり、考察の妥当性を高めるための追加の実験や情報収集を行ったりする学習活動の充実。

- 目に見えない粒子をイメージし、微視的に事象を捉えるために、1人1台端末を使用して、原子や分子のモデルを動かし、生徒が試行錯誤できるような学習活動の充実。

- 観察、実験の目的や、その方法や結果についての見通しを明確にするとともに、各単元や各領域での知識及び技能をそれぞれ関連付けて多面的、総合的に探究する学習活動の充実。

- 時間的・空間的な見方を働かせて、過去に起きたと考えられる事象を推論したり、地層の広がり方を推論したりできるようにするために、科学的根拠に基づいて地層の広がりや大地の変化について考察したことを表現する学習活動の充実。

中学校調査 [理科]

・以下の集計値／グラフは、4月14日から4月17日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値です。

集計結果

対象生徒数	札幌市（公立）	全国（公立）
	12,744	864,634

中学校理科の調査は、IRT（項目反応理論）というテスト理論を用いて実施されている。この理論に基づき各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準とした得点としてIRTスコアが算出されている。生徒に返却される個人票には、IRTスコアを1～5の5段階に区切ったIRTバンドが示されている。

個々の問題の結果については、公開問題のみの結果が提供されているため、本市の状況を今年度は公開問題から分析を行っている。

【1】 平均正答数集計値

☐ 全日程に共通する問題（全国の生徒が回答している設問）

	生徒数	平均正答数
札幌市（公立）	12,744	3.0 / 6 問
全国（公立）	864,634	2.9 / 6 問

【2】～【9】 平均正答数集計値

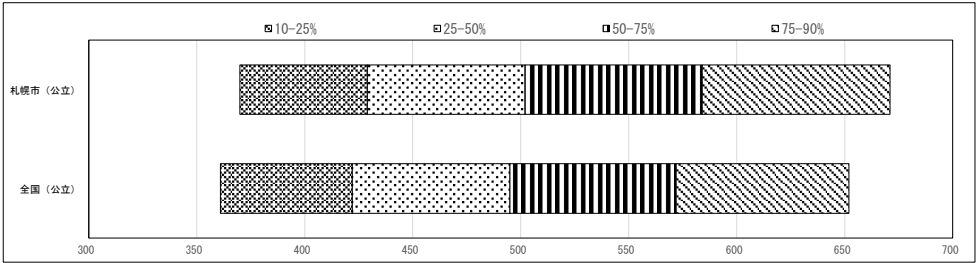
☐ 実施日により異なる問題（学校によって取り組んでいる設問と取り組んでいない設問がある）

	【2】、【9】	【5】、【8】	【3】、【6】	【4】、【7】
札幌市（公立）	2.0 / 4 問	1.9 / 4 問	2.3 / 4 問	2.4 / 4 問
全国（公立）	2.0 / 4 問	1.9 / 4 問	2.3 / 4 問	2.3 / 4 問

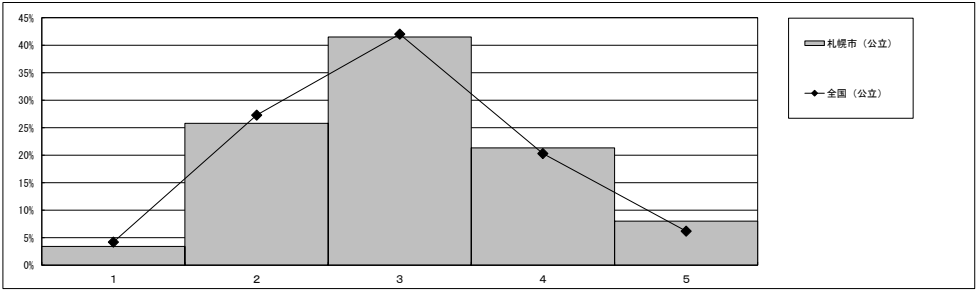
IRTスコア集計値

	平均IRTスコア	パーセンタイル値				
		10%	25%	50%	75%	90%
札幌市（公立）	515	370	429	502	584	671
全国（公立）	503	361	422	495	572	652

IRTスコア分布グラフ（パーセンタイル値：10%、25%、50%、75%、90%）



IRTバンド分布グラフ（横軸：IRTバンド 縦軸：割合）



IRTバンド分布比較

